

アラウンド GOGO 55



花の名前を覚えると 自然に近づけるよ

櫻井宏明

私はよく「数字に弱い理科系です」と自己紹介します。

数字を覚えることが得意ではないからです。物理の教員なので、数式を使うことに抵抗はないし、論理的に物事を考えることも苦ではないのですが、暗記は苦手です。

今日、私たちは生活の様々な場面で、数字やアルファベットを組み合わせたパスワードを使っています。たとえば職場のネットワークに接続するときやメールを使うとき、キャッシュカードやクレジットカードを使うときなどです。覚えやすい数字をパスワードに設定するわけにもいかず、パソコンやカードに書いておくわけにもいきません。その上、たびたび変更を求められるものもあります。

たかが4桁から6桁ぐらいの数字や記号の組み合わせなのですが、これがなかなか覚えられず苦労しています。

暗記が苦手ということは数字に限ったことではなく、植物の名前も同様でした。私が理科の教員だからと植物の名前をたずねてくる同僚もいましたが「物理の専攻だったので」で済ませていました。あまり知らなかつたし、覚える気もありませんでした。

*

そんな私の考え方を変えたのが、尾瀬に一緒に行った植物に詳しい同僚の「花の名前を覚えるともっと自然に近づけるよ」という一言でした。

尾瀬には学生時代から何度も通っていましたが、花の名前の由来を学んだり、「固有

種」とか「氷河時代の生き残り」とかいったその植物の背景を知ったりすることで、その花をさらに身近に感じられるようになりました。それから無理をせずに1回に2、3種類の花の名前を覚えるようにしました。

尾瀬の植物に限らず、野に咲く花についても、覚えた先から忘れてしまうことも多いのですが、名前のわかる花が少しずつ増えてきました。そしてパスワードを記憶することとの何よりも大きな違いは花の名前の場合は覚えることが苦痛ではないことです。

(埼玉・特別支援学校教員、
全障研経営委員)

※「アラウンド55(ゴージー)」は、50代の会員によるエッセイコーナーです。